

完新世を3つの時期に区分する

2018年7月に開催された国際層序学委員会(International Commission on Stratigraphy)で、完新世を3つの時期に区分するという案について活発な議論が交わされた[1]。問題になったのは、完新世中期と後期の境界を、4200年前の早魃でもって定義するという提案である。

この案は、1990年代に、中近東で4200年前に早魃があって、メソポタミア文明が崩壊したとするエール大学の考古学者の説に端を発している。こうした環境の変化は、同時期に他の地域でも認められるとして、時代区分の指標にしたかどうかという意見と、世界的に早魃が進んだわけでもなく、たとえ早魃が起こっていたとしても地域ごとに時期がずれているので、時代区分としては不適切だという反対意見もだされた。

提案によれば、完新世の始まりは最終氷期の終焉にあたる11700年前から現在までであり、それを8200年前までのグリーンランドIAN(Greenlandian)、8200年前から4200年前までのノースグリッピアン(Northgrippian)、4200年前から現在までのメグハラヤン(Meghalayan)に区分するというものである。8200年という前期と中期の境界では、一時的な気候の寒冷化が起こっていることがわかっている。

委員会では、こうした区分を採用するには、まだまだ科学的な議論が必要であり、委員会としての議論はしばらく行わないとしている。

Voosen, P. (2018) New geological age comes under fire. *Science*, 361, 537-538.